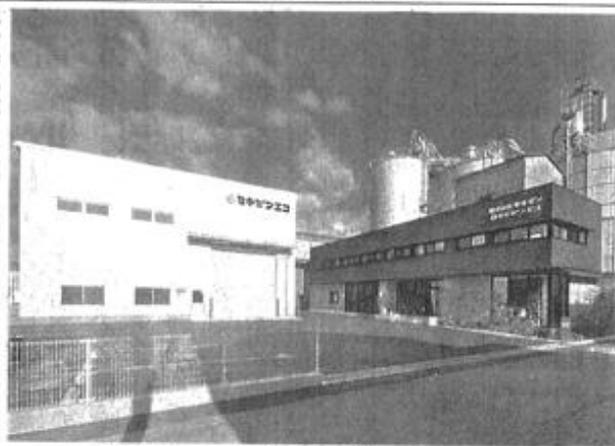


ゼンセキ 本社工場・事務所を拡張 環境関連事業の体制を強化

鋼材加工販売のアムロングループで資源再生やステンレス鋼販売などを手掛けるゼンセキ（香川県高松市、岩崎一雄社長、☎087・881・116）は、環境関連事業の体制強化を目的に本社工場と事務所を拡張リニューアルした。建設廃材リサイクルの扱い増への対応やマテリアルリサイクル率の向上を狙ったもので、投資額は約4億5000万円。グループ全体で、環境事業を新たな柱として確

立させていく考え。同社はステンレス事業部とエコ事業部を展開。エコ事業部では住宅建設廃材のリサイクル、太陽光パネルリサイクル（リサイクル率100%）、解体事業などを手掛ける。近年はエコ事業部を「ゼンセキエコ」としてブランド化を進め、建廃の取扱量は5年前比で約1・5倍に増加させている。



大幅リニューアルした本社工場と事務所

今回のリニューアルでは、工場2棟のうち1棟を床面積約620平方メートルの第2工場へ建て替えた。第1工場に設置していた太陽光パネルリサイクル設備や保管スペースの一部を移設し、第1工場は建

築の分別に特化。作業スペースを拡大したことで、より効率的な動作を確保した。建廃は新築住宅現場から混載で集荷し、鉄材、廃プラスチックなど20品目に分別。分別専門工場の整備により、従来サーマル処理していた廃プラをPP（ポリプロピレン）、PE（ポリエチレン）など10品目に細分化し、マテリアルリサイクル率の引き上げを図る。現在は手選別で対応しているが、3年をめどに破碎機や重機導入も計画。第3工場用地も確保済みで、解体事業に伴うヒール類やコンクリートが処理への対応も視野に入れている。

年内には徳島県阿波市の保管拠点を拡張し、工場整備を進める確立を目指す。

計画にある。将来的には太陽光パネルの大量廃棄時代を見据えた設備増強も検討している。営業エリアは現在、香川県と徳島県が中心だが、グループで連携して四国全域や近隣地域への拡大を目指す。事務所も従来の約3倍規模に建て替え、従業員が業務により集中できる環境を整備した。今夏には本社使用電力の全量を賄う太陽光発電設備の設置も予定している。